

第5回岡山市技術研修生帰国

洛陽市での一年間の中国語研修を終え帰国された、第5回岡山市技術研修生の3名に、洛陽市での思い出を綴っていただきました。

澤田望美

洛陽に留学して早くも8ヶ月が過ぎてしまいました。初めは言葉がまったくわかりませんでしたが、意外にも何とか生活できています。ここは留学生が少なく、中国の学生と友達として話す機会もありました。さらに夏休みの約1ヶ月半は、東北、内モンゴルを旅行し、汽車の中、道端と、いろいろな時、場所で多くの人とふれ合うことができました。言葉はやっと話せる程度なので、相手の言葉は、耳と目と雰囲気気で理解し、話す時は、手、口、体全体を使って、「会話」をすることは、私にとってとても貴重な体験だったと思います。

また、中国の中で、一年間生活できたことは、今まで、日本でしか生活したことがなかった私としては、毎日がとても新鮮でした。

これらの体験を日本に帰ってからも、生かせたらと思っています。

澤田さん
(一番左)



鈴木さん



山崎さん

鈴木智子

この一年様々な出来事や思いがありましたが、私にとって一番の思い出は子供達との交流です。一つは7月1日香港返還前夜の牡丹広場での出来事。笑顔の可愛い小学生たちと仲良くなってたくさん歌を教えてもらっていたところ、最後に国歌となり、あなたの国の歌も歌ってと何度もせがまれてしまいました。何百人もの人がいるし、お年寄りもいるし、こんな日になにも…と思ったものの覚悟を決めた所、大勢の方より暖かい拍手を頂き、子供達もとても喜んでくれました。また、夏の岡山市子供海外派遣研修にカルチャーアシスタントとして参加させて頂いた時には、中三のみんなの新鮮で柔軟な考え方に日々驚かされっぱなしでした。最後の中国の家族の方々との駅でのお別れは、あまりのみんなの大泣きに、ついもらい泣きしてしまいました。一年間大変な事も多かったけれど、やはり、なによりも自分らしい留学を目指すのが一番だと思いました。

山崎由美

春夏秋冬。この研修のおかげで、四季を通じて中国洛陽の生活を体験することができました。来た当初は全く分からなかった洛陽の街も今では自転車やバスを利用し市内の地理には多少詳しくなりました。それに、もともと“你好”“再見”程度の簡単な言葉しか言えなかった私が、市場や商店、また先生や友人と中国語を使って会話ができるまでになったことは、大きな大きな進歩だと思っています。しかしやはり母国語を使うように中国語で、というのはまだまだ遠い先の話で、勉強に関しては「生涯学習」という言葉を身をもって感じています。

確かに、中国語の勉強は日本にいても、どこにいてもできますが、「現在の中国」を感じながら学ぶ、それは留学をおいて勝るものは他にないように思えます。

私にそのような機会を与えて下さったことに対して、岡山市・洛陽市に改めて感謝したいです。

第 9 回 洛陽市技術研修生来岡

第 9 回洛陽市技術研修生の 3 名が昨年 11 月 7 日に来岡され、研修受入れ先である岡山理科大学でそれぞれの専門分野の研究を行っています。



氏 名 王 軍 (おう ぐん)
 研 修 先 岡山理科大学・工学部機械工学科
 研修内容 機械 C A D (計算機援用設計)、ロボット工学
 職 業 洛陽工学院機械設計工学部教授



氏 名 呉 銳 (ご えい)
 研 修 先 岡山理科大学・工学部機械工学科
 研修内容 機械 C A D (計算機援用設計)、
 C A M (計算機援用加工技術)
 職 業 洛陽大学機械学部講師・教務処副処長



氏 名 張 建設 (ちょう けんせつ)
 研 修 先 岡山理科大学・工学部機械工学科
 研修内容 建築工事の施工管理・建築工程の構造理論の研究
 職 業 洛陽大学土木工学部講師・学報編集部副責任者



↑宮島を視察



第 6 回 岡山市技術研修生派遣

第 6 回洛陽市派遣岡山市技術研修生が、応募者 16 名 (女性 12 名、男性 4 名) の中から下記の 3 名に決定しました。3 名は今年 4 月から 1 年間、洛陽市内の大学で中国語の語学研修を受けるとともに、友好親善を深めて来られます。皆さん、頑張ってください！



お茶の水女子大学人間文化研究科在学
 大 辻 富実佳

日本と中国は隣国同士ですが、今のところお互いのことを十分理解しているとはいえません。今回、幸運にも友好都市洛陽で生活する機会をいただいたので、それを生かして、今後世界の動向の鍵を握るといわれている中国で、人々が何を考えているのかを理解し、それを日本に伝えて、岡山と洛陽の友好の懸け橋になりたいと思います。



高 杉 優 子

洛陽では日本文化を積極的に紹介していくと共に、中国の人々がどのような習俗・習慣・文化を持つのか、社会・経済・教育・ものの見方等、実際に肌で感じながら学習・交流していきたい。そして、これからの日中交流のために何が必要なのか、自分には何ができるのかをこの研修期間中に見極め、吸収して岡山へ持ち帰りたいと思う。



追手門学院大学文学部東洋文化学科在学
 船 越 元 洋

幼少からの憧れの地、洛陽に技術研修生として赴くにあたって、私はこの様な機会を与えてくださった方々に感謝し、その期待に全力をもって応えるつもりです。そして、岡山市民としてのみでなく、日本人として洛陽の人々からの信頼を受けることができるように努め、両市の友好と発展のために貢献したいと考えています。

友好交流サロン

語学講座として「ハングル講座」(火、土)、「中国語講座」(火)、「スペイン語講座」(金)をそれぞれ初級・中級と6コース、それに、外国人を対象にした「日本語教室」(木)2コースを実施しました。

また、毎月一回(9月、10月を除く)「ふれあい講演会」と、外国人を対象とした「日本文化紹介講座」を開催しました。

ふれあい講演会

国の異なる人々が交流するためには、その国の言葉が話せることも必要ですが、それだけでは十分ではありません。お互いの国の文化を知ることが何よりも大切なことです。この講演会を通じて理解が深まったことと思います。



4月 サミュエル・ダイヤーさん
「オーストラリア～平和の中の摩擦～」



5月 フランシスコ・ルイスさん
「私が見た日本とスペインの文化」
⇨興味深く講演に耳を傾ける聴衆



6月 黒岩真里子さん・高橋伊知子さん・藤原恭子さん
「第二の故郷～洛陽の素顔～」



7月 ハディスシロ・アリフィンさん
「インドネシア・私の好きな国」



8月 熊代剛士さん
「赤くないロシア～モスクワと北京から～」



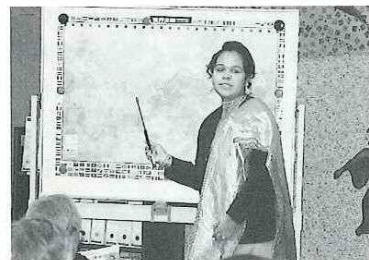
11月 崔 泰順さん
「民族教育と私～朝鮮学校はいま～」



⇨民族衣装の紹介も



12月 谷 義仁さん
「それぞれの国それぞれの都市～私の見た姉妹都市～」



1月 サビナ・マハムードさん
「私の国バングラデシュ」



2月 野村 暁路さん
「大切なものだからこそ君たちにあげる」



3月 ジュディス・三上さん
「日本の国際化の将来」

日本文化紹介講座

外国人が日本語を学ぶとともに、日本の文化を理解し興味を持つことができれば、生活がより楽しくなることでしょう。四季の変化に応じたテーマを設定し、在岡外国人に好評を得ました。



4月

「生花」

広瀬 香節 先生



5月

「煎茶」

笠原 翠修 先生



6月

「着付け」

坂本 紀子 先生



7月

「折り紙」

沢 まさこ 先生



8月

「書道」

木村 明美 先生



11月

「刺し子」

藤原 一子 先生
田中 純子 先生



12月

「合気道」

竹村 玄山 先生



1月

「かるた」

田中 克郎 先生



2月

「巻ずし」

島瀬 恵美子 先生



3月

「箏」

大月 宗明 先生

語学講座と日本語教室

ハンゲル講座



初級 林 一圭先生
〈1月まで〉



初級 李 禹植先生
〈2月から〉



中級 崔 泰順先生

中国語講座



初級
鳥越崇昌先生



中級
支 洪濤先生

スペイン語講座



初級
ペルドモ・イルセ先生



中級
マルレーヌ・タシマ先生
〈6月まで〉
(写真前列中央)

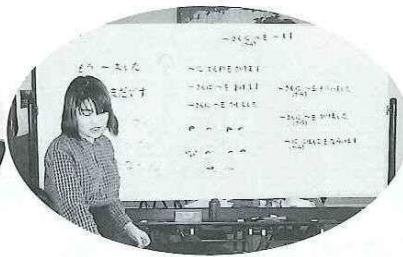
中級
マルビン・ゴメス先生
〈7月から〉



日本語教室



ほぼレベルが同じグループに分けて指導しています。



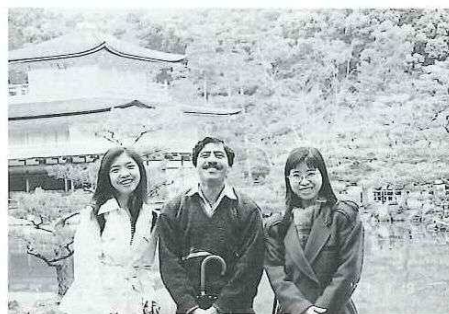
助詞の使い方も外国人には難しいことの一つです。



1月にはカルタも小道具として登場します。

第3回アジア奨学生帰国

第3回アジア奨学生のアフタブ・サイード氏（パキスタン）が昨年9月16日に、パニタ・クリアンサード氏（タイ）が10月22日に帰国されました。なお、ウェイン・ホング・ヴァン氏（ベトナム）は、岡山大学大学院環境理工学部修士課程へ進学し、私費留学生として引き続き研究を続けています。



↑京都を視察



アフタブ・サイード

（受入先：岡山大学大学院薬学研究科、研究分野：生薬学）

最初に、この一年間岡山で過ごして感じたことについて述べたいと思います。まずは、アジアから来ている外国人にも積極的に声をかけてくれたら嬉しいです。次に、日本は他の文化を真似るよりも日本独特の文化をよりいいものにするのが一番大切ではないかと思っています。最後に、国が4つの地方に分かれ四季もあるパキスタンは、岡山と岡山市民との深い交流が必要だと思っています。私の勤務先であるハムダード大学と同校の学長は、岡山市民を喜んで歓迎しますので、何かお願いがありましたら遠慮なくご連絡ください。

この一年間のすべてはこれからも心に残る思い出になります。県内視察、東京などの県外視察、パーティ、吉備路でのサイクリングはとても印象的でしたが、中でも研究室で過ごした時間は、一番思い出深いものになっています。

最後に、岡山に来させてくれたハムダード大学と同校の学長、私を岡山に招聘し、住居を用意してくれた岡山市国際課、私に研究を行うチャンスを与えてくれた岡山大学大学院薬学部の皆様のご親切に感謝しています。



ウェイン・ホング・ヴァン

（受入先：岡山大学環境理工学部、研究分野：環境・土木工学）

岡山はとても美しい町で、岡山の皆さんはとても親切ですから、私は岡山での生活と岡山の人が大好きです。家族や友人に岡山のことを話したら、皆はいつか岡山へ来て親切的な岡山の皆さんと友達にならなっていました。

東京、京都、大阪の視察、お世話になった“日本のお父さん、お母さん”、諸外国の友達、初めての和食（特に刺身）初めての雪、国際交流祭などの日本と岡山での思い出を大事にしています。

日本に留学できたことを感謝しています。他の国の文化を学びながら、新しい発見と友達に出会うことはとても面白いことです。この岡山市アジア奨学生受入制度を是非続けてほしいです。そして、より多くの外国の人が日本のことを知ることができるよう、このプログラムが発展することを願っています。

最後に、この一年間にお世話になった方々にお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



パニタ・クリアンサード

（受入先：岡山商科大学大学院商学研究科、研究分野：金融学）

私は日本とタイの金融について研究しました。主に両国の銀行組織（制度）、金融機関、金融資産、通貨（金融）政策を比較しました。又、友好交流サロンで行っている日本文化紹介講座や日本語教室に出席しました。どちらも楽しかったです。

私の思い出の中で“桜”という花が印象に残っています。桜は今まで見た花の中で最も美しいと思います。日本人はどうして桜がそんなに好きなのか分かるようになりました。

そして、一番大切な思い出は岡山で出会った人々のことです。私は、勉強時間以外はパーティやイベントに参加し、他の学生とも友達になれました。又、友達を通していろんな人達とも出会えました。岡山の皆さんはとてもやさしくて私の心を温めてくれましたので、一度もホームシックにかからずに過ごすことができました。

皆さんが親切にしてくださったおかげで、私の岡山での生活はとても楽しいものになりました。ありがとうございました。機会があれば、また岡山へ遊びに来ます。

第4回アジア奨学生来岡

第4回アジア奨学生が昨年10月6日に2名（インド、ミャンマー）、昨年11月7日に2名（バングラデシュ、ネパール）来岡されました。4名は、現在岡山市内の大学でそれぞれの専門分野の研究に取り組んでいます。



氏名 Monica Kalra
(モニカ・カルラ)
出身国 インド
受入先 岡山大学文学部言語文化学科
研究分野 日本文学
職業 無



氏名 War War Lwin
(ウァー・ウァー・ルウィン)
出身国 ミャンマー
受入先 岡山理科大学理学部基礎理学科
研究分野 植物の組織培養
職業 バテェイン大学植物学部講師



氏名 Samir Kumar Bhattacharjee
(サミル・クマール・バタチャルジー)
出身国 バングラデシュ
受入先 岡山大学大学院農学研究科
研究分野 流域環境管理工学
職業 バングラデシュ水資源開発局技師



氏名 Rajesh Joshi
(ラジーシュ・ジョシ)
出身国 ネパール
受入先 岡山理科大学工学部電子工学科
研究分野 情報通信 (携帯電話システム、マイクロ波回線)
職業 ネパール電信通信(株)技師



第2回岡山市シニア技術協力者 洛陽市へ派遣

第2回岡山市シニア技術協力者として、福政康夫氏を昨年9月30日に洛陽市へ派遣しました。現在、福政氏は派遣先である洛陽外国語学院で、今年7月までの予定で日本語の指導にあたっています。

派遣者：福政康夫
派遣先：洛陽外国語学院
専門分野：日本語指導
派遣期間：平成9年9月30日～
平成10年7月下旬の予定



◁ 授業風景
(洛陽外国語学院にて)

「洛陽随感」

福政康夫

昨年10月1日、ここ洛陽外国語学院に赴任して100日が経過した。前日午後、広島空港を立ち、その夜は西安に一泊。中国は丁度「国慶節」であったこの日以後、いたって元気で勤務している。

この学院は「中国人民解放軍」の軍事施設である。学生達は広大な中国全土から選りすぐられた俊英達、男女1,600人（別に私服の地方学部学生が1,300人）が実に整然とした軍服姿で、19ヶ国（地域）の言語を学んでいる。私を含む外国人教師も、各国の言語指導に派遣されている。ここで、ウズベキスタン・キルギスタン等の教師達

と交流ができることは望外のことであり生涯忘れることは出来ない。

学生達への日本語指導も順調に進んでおり、休憩時間の『バレーボール』や、中国の伝統的な遊び『毬球』、『北国の春』を始めとした『歌声』等も、『日・中友好』のささやかな一助になればと思う。また、私を派遣して戴いた岡山市への限りない感謝と共に、洛陽市と友好関係にあって、未だ見ぬ…軍人身分である学生達には現在、海外渡航が許可されていない…いや、生涯見ることが不可能かもしれない『日本・岡山市』との間に持っているであろう距離感を、若い彼等の意識の中でどのように埋めることが出来るのか、小さな『年老いた民間外交官』としての責任の重大さを痛感する毎日である。